

Ⅲ 令和元年度体育・スポーツ推進計画主要施策の実施状況随時

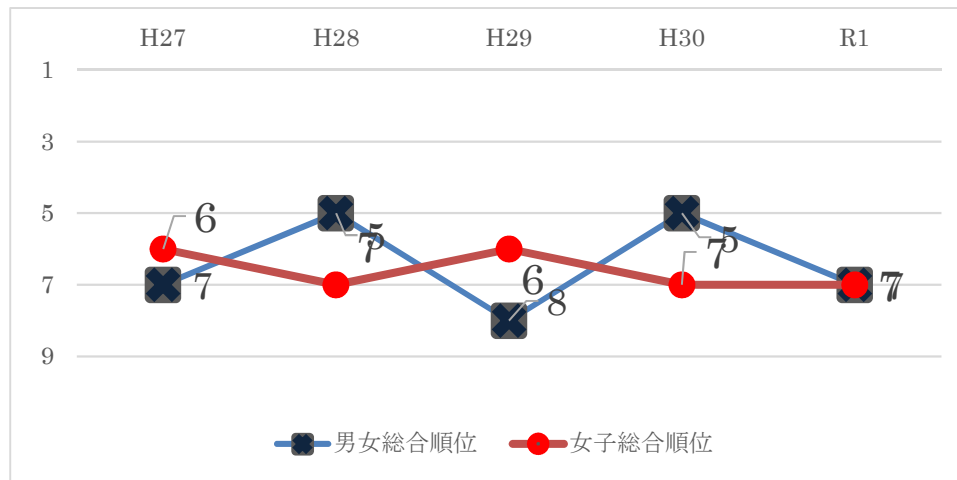
基本施策（6つのリンク）別総括

（記載様式1号）

リンク D 競技力の向上			
基本指標	前年度（H30）	達成状況（R1）	目標（R3）
○国民体育大会入賞 都道府県対抗順位	都道府県対抗 男女総合5位 女子総合7位	都道府県対抗 <u>7位</u> <u>7位</u>	都道府県対抗 5位以内
○全国障害者スポーツ大会参加者が金メダルを獲得した割合	53.2%	台風のため中止	経年増加

（基本施策指標）

国民体育大会における都道府県対抗順位



施策1 選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上

目標・方向性 個々の選手及びチームの競技力向上を推進する

- ア 国民体育大会入賞に向けた選手強化
- イ 未来のアスリート発掘・育成・強化
- ウ 指導者の養成・確保・資質向上と適正配置
- エ 障害者競技スポーツの競技力向上

（総括）

- ・ 「国民体育大会派遣事業」、「国体選手強化・サポート事業」、「ちばジュニア強化事業」、「指導者の養成・確保事業」、「パラリンピック競技の競技力向上支援事業」等を具体的な取組として推進しました。

この施策の参考指標として「国民体育大会における少年種別の都道府県順位」をみると、昨年から2つ順位を落として9位となりましたが、その中で、成年女子は昨年の11位から5位と大きく順位を上げました。

今後は、次回大会での連続入賞を目指し、引き続き各競技団体と連携し、競技力の向上を進めます。

施策2 競技力向上のための環境整備

目標・方向性 計画的に競技用具の整備を推進する

トップチームを支援し、競技団体の強化環境を整える

- ア 強化拠点施設の確保と競技用具等の計画的な整備の推進
- イ トップチーム支援及び企業・大学・総合型クラブ等との連携
- ウ 参加条件の整備

(総括)

- ・ 「競技用具等整備事業」、「トップチーム支援事業」、「公共スポーツ施設の有効活用」、「選手・指導者の参加条件の整備」等を具体的な取組として推進しました。
この施策の参考指標として、平成29年度から令和3年度までの整備計画における達成度を示す「競技用具等整備事業達成度」をみると、令和元年度は、計画どおり4競技団体に対し総額7,500,000円の整備を行い、平成29年度からの累計で54.5%達成しました。
次年度は、5競技団体に対し、計画的な競技用具等の整備を進めます。

施策3 スポーツ医・科学の積極的な活用

目標・方向性 効果的な選手強化のためにスポーツ医・科学の活用を推進する

ア マルチコンディショニングサポート事業による多面的な支援の充実

(総括)

- ・ 「スポーツ選手医・科学相談」「基礎能力測定・障害相談・栄養相談」、「医科学サポートスタッフの強化活動への派遣」、「メディカルチェックの実施」等を具体的な取組として推進しました。この施策の参考指標として「マルチコンディショニングサポート事業活用団体数」をみると、令和元年度は、39団体が活用し、活用率は95%でした。
今後は、支援充実を図り、活用団体の増加を目指します。

施策4 組織・調査等の充実

目標・方向性 国体選手の適正な選考・障害者競技スポーツの組織の育成・強化活動調査事業や競技力向上対策への助言・指導を行う。

- ア 各種会議の充実
- イ 各種表彰と広報活動の充実

(総括)

- ・ 「競技力向上推進本部会議の開催」、「国体選手選考・強化活動調査事業」、「優秀選手及び優秀監督の表彰」、「広報活動の充実」等を具体的な取組として推進しました。
内容や進め方を検討し、建設的な議論がなされ研修の効果が上がるよう、各種会議や研修会の充実を目指します。
さらに、本県アスリートの活躍を県民に広く周知されることを目指し、広報活動の充実を図ります。

施策5 競技会開催等の充実

目標・方向性 各競技会の充実を図り、競技人口の拡大を図る

国際スポーツ交流を充実させる

ア 競技スポーツへの参加（みる、する、ささえる）の裾野拡大

イ 国際スポーツ交流事業の充実

（総括）

- ・ 「千葉県民体育大会の充実開催と各競技会でのサブイベント実施」、「国民体育大会千葉県大会（国体予選）開催の充実」、「ドイツ・デュッセルドルフ市とのスポーツ交流」、「台湾桃園市とのスポーツ交流」等を具体的な取組として推進しました。今後は、各種事業のさらなる充実を目指します。

施策6 競技スポーツの好循環

目標・方向性 トップアスリート等の能力活用を推進する

ジュニアアスリートへの教育プログラムを実施する

ア トップアスリート等の活用

イ 教育プログラムの推進

（総括）

- ・ 「トップアスリート等活用事業」、「アンチドーピングに関する教育・啓発活動」等を具体的な取組として推進しました。今後は、新たな取組である「アスリートキャリア開発の推進」及び「ジュニアアスリートロールモデル構築事業」の検討を進めます。